

令和5年3月31日

保護者の皆様
地域の皆様

世田谷区立緑丘中学校
校長 高山知機

令和5年度に向けた改善策
(学校関係者評価委員会評価結果の報告を受けて)

先日、本校学校関係者評価委員会から、学校関係者評価結果の分析と報告を受けました。良好な評価とともに、改善を図る点について提言も受けました。

校長として寄せられたご回答やご意見をしっかりと受け止め、具体的な改善策を考え、次年度の教育活動に生かすことをお約束します。

記

学校評価委員からの提言と次年度に向けた改善策

	学校評価委員会からの提言	校長として次年度に向けた改善策
I 基本方針と方策について		
1. 学力向上と「せたがやキャリア・未来デザイン教育」で培った知識・技能を活用できる能力の育成		
(1) 教員の黒板の書き方やプリントの工夫について、生徒全体で93.8%の肯定的評価が出ており、昨年度の90%より上回った。また、全教育活動において言語活動を取り入れた学習が定着したと言える。	今般の数字に満足することなく、引き続き都教委・区教委等の主催する研修に教員を派遣し、「コロナ対応」に留意しつつ授業力の向上に努めさせる。	
(2) 教員の映像やタブレット等ICTを利用した指導の工夫については、生徒の99.2%が肯定的意見を出している。タブレットの供給や修理などの対応の充実を区教委に働きかけていただきたい。	教職員のICTスキルの向上を図りつつ、主幹養護教諭の関与を多くし、生徒の健康面に配慮した活用計画が実現できた。ハード面について区教委と連携を図っていきたい。	
2. 体力の向上と健康に対する意識の高揚		
「通学時のカバン重量6kg以内」の目標を掲げ、充分改善されている。 保護者の自由記述から、空調設備についての懸念等も指摘されている。	昨年度から取り組んでいる「生徒カバン6kg以内」を具現化するよう、引き続き教職員全員で努力するとともに、生徒の自己管理力の向上を目指していく。 空調設備については、令和5年度大規模な改修工事が入る予定である。	
3. 人権を尊重した教育活動の推進		
「仲間や友達を大切にしている」93.8%、「あいさつを大切にしている」88.1%等、「心の育成」の成果がみられた。 また、「私は学校のルールについて考えて行動している」84.8%(前年度87.7%)、「先生は学校のルールを生徒に考えさせて指導している」84.6%(前年度82.8%)と肯定的評価が高い。	東京都教育委員会の発出する「人権教育プログラム」等の資料を活用し、引き続き、教員の人権意識の高揚を図っていく。 また、生活指導主任を核とした生活指導部、学年主任を核とした学年組織等、組織的な指導体制の構築を図るとともに、各主任を中心に、引き続き分掌内教員の情報の共有化と分掌内格差是正に努める。	

4. 伝統・文化に関する教育の充実を視野に地域と信頼関係で結ばれた学校づくりの推進		
(1)	「各種学校だより等を通じた適切な学校情報の発信」について、保護者の 89.0%、地域の 95.1%が肯定的評価をしている。	令和 4 年度より、新分掌「学校経営支援部」を立ち上げ、ICT に長けた教員を主任に任命

	<p>また「学校HPやメールによる保護者への情報提供」においては、保護者の 87.7%、地域の 72.5%が肯定的評価をしている。</p> <p>反面、自由記述において、連絡事項や年間予定の学校HPへの掲載、学校HPのレイアウトの改善について意見があった。IT環境の充実と必要情報の発信について配慮が必要である。</p>	<p>し、学校HPの充実とオンライン関連の強化を図る。引き続き紙ベースによる情報発信については、今後とも適宜改善を施し、肯定的評価の向上を目指す。</p> <p>また、学校HPやメール等によるデータベースによる情報発信については、近年の状況より個人情報の取扱いに充分注意し、発信頻度、レイアウトの改善を重点に改善をしていく。</p>
(2)	今年度もコロナ禍の影響により、充分なPTA活動や地域連携が図れなかった。会議開催、活動再開の状況が強く求められる。	本年度も「コロナ対応」状況の中、保護者・地域の方々から、ご理解をいただいている状況があるが、感染に留意しつつ、ニーズに応えた保護者・地域連携を具現化していく。

5. 公的機関としての学校組織の運営		
(1)	物品の管理・購入の適正な執行と明確な運用について、教職員のヒアリングを行ったが、肯定的評価が 96.0% (前年度 91.7%) と引き続き高評価であった。	引き続き、教員と事務主事との連絡・連携を密にし、今後は購入時期等、年間を見通した執行がなされるよう留意する。
(2)	給食費・教材費等の私費会計については問題が散見されなかつたが、引き続き会計報告等、保護者への明朗な執行状況報告等が求められる。	今後とも適正執行に努め、併せて適正な執行状況の明示等に留意する。
(3)	決算報告書、会計事務に関する説明責任については、年度末の保護者会にて明治できるよう、計画的な執行が望まれる。	未納家庭等の対応も含め、引き続き決算の時期を極力早め、年度末の保護者会で明示できるよう、計画的な執行を心掛けるとともに、評議委員への明示に努める。

II 共通項目アンケートの評価

1. 生徒のアンケートより		
	<p>回収率は、1 年生 89.2%、2 年生 71.8%、3 年生 92.9%、全体の回収率は 89.6% と、前年度 (93.3%) を下回った。</p> <p>全学年を通して、「学習面」に関する肯定的評価は、90% 前後と高いものがあり、前年度より教員の学習指導の工夫とその成果がみられる。</p> <p>「生活指導」については、概ね 90% の肯定的評価であり、学校行事については、「楽しい」93.5% (前年度 90.0%)、「達成感がある。」92.0% (前年度 88.8%) と高い肯定率が認められる。</p> <p>また「進路指導」については、80% 前後の肯定的評価がなされている。今後とも、生徒の進路選択肢のきっかけとなる機会や場の提供を要請する。</p>	<p>引き続き学習面については、外部研修等適切に活用し、教員の授業力向上を図っていく。</p> <p>また、学習に課題のある生徒については、特別支援教室（すまいる みどり）との連携を図りつつ、きめ細かい指導の確立を目指していく。</p> <p>学校行事等については、感染症対策などの制限がある中でも、従来に近い形で実施できた。</p> <p>生活指導については、令和 5 年度も人権教育と相まって、規範意識の高揚と、教員の指導力向上を、ベテラン教員の経験を活用しつつ、家庭との連携を密にして、健全育成に努める。</p> <p>進路指導については、あらたな「キャリア・未来デザイン教育」の具現化に努め、生徒の自己実現に寄与していく。</p>

2. 保護者のアンケートより		
	回収率は、1年生 27.2%（前年度 80.0%）、2年生 38.8%（前年度 74.0%）、3年生 35.9%（前年度 71.0%）で、紙媒体から電子化に変更になった影響が大きく反映された。 学習指導についての肯定的評価は、40%台、とりわけ 1年生の保護者の不安が大きいものと認められる。コロナ禍に起因している可能性があるが、引き続き丁寧な説明が求められる。	引き続き全校態勢で「わかる授業」の実践と、区・都・国各種学力調査を活用し、生徒の学力成果の向上を図り、保護者の理解をいられるよう努めていく。 今後電子化への意向については、保護者会等を通じて、丁寧な説明、情報発信に努めていく。
3. 地域の方々のアンケートより		
III 自己評価について		
	101名送付に対して、79通の回答があり、回収率 78.2%で、前年度の 2 倍に迫る数値である。 学校の取組については、概ね 50%台半ばから 70%台の肯定評価がみられる反面、未だ「コロナ対応」に伴い、学校訪問の機会がなく、現状の把握が困難な状況が認められる。	学校行事の運営等、令和 4 年度については、極力「コロナ以前」の状況となるよう、工夫してきた。今後さらに拡大していきたい。 「学び舎活動」については、学校 HP 等、ICT を活用し、連携・情報発信に努める。
IV 独自項目を踏まえた学校関係者評価委員会としての総合所見		
	学習指導については、授業の工夫等、わかりやすい授業実践の状況が認められた。コロナ禍 3 年目になり、各学校行事も制限のある中にも、従来に近い形での実施ができ、概ね評価できる。 反面、定期的な情報発信、タブレットの充足・故障への対応等、新たな課題も散見される。 今後 Web 対応への意向について、地域との連携も含め、丁寧な移行が求められる。	高評価をいただいたものについては、引き続き、生徒・保護者、地域の期待に応えられるよう、努力を継続していく。 学校行事の ICT を活用しての発信については、個人情報保護の観点も十分考慮し、可能な限り保護者のニーズに応えられるよう、工夫していきたい。 「with コロナ」下の教育活動に移行するため、保護者・地域への丁寧な説明と対応を構築していく。